



香川県教育委員会義務教育課

特別活動を要としたキャリア教育において、すべての小学校・中学校・高等学校で「キャリア・パスポート」が実施されることとなりました。各学校における取組に向けて、そのポイントをまとめました。

1 「キャリア・パスポート」について



▶ 自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ

学校での教育活動全体や、家庭、地域での生活や様々な活動を含め、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

【小学校、中学校学習指導要領】（文部科学省）

2 「キャリア・パスポート」を実施する目的

▶ 主体的に学びに向かう力を育み、自己実現をつなぐ

(1) 小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況や※キャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現をつなぐもの。

(2) 教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

【「キャリア・パスポート」例示資料等について】（文部科学省）



※キャリア形成…社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく働きかけのこと

3 「キャリア・パスポート」の様式や内容について

- ▶ A4版に統一（両面可）、各学年5枚以内
- ▶ ファイル等の装丁や表紙は、市町（学校組合）教育委員会が準備

(1) 自己の学びや成長の過程を振り返り、将来を見通す内容
「既にある学校での取組の『宝』を生かす」「今あるものを生かす」

(2) 学校生活や家庭・地域における学びを含む内容

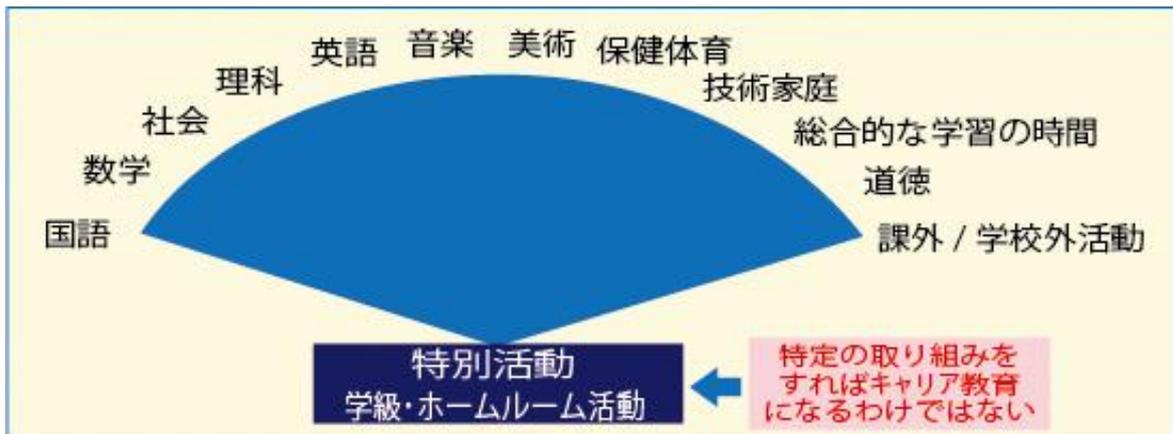
①～③の幅広い場面から自己を振り返り、見通しが持てる内容。



- ① 教科学習
- ② 教科外活動（学校行事や児童会・生徒会活動、クラブ活動、部活動等）
- ③ 学校外の活動（ボランティア等の地域活動、家庭での取組等）

【「キャリア・パスポート」例示資料等について】（文部科学省）

（参考）文部科学省 キャリア教育研修の資料より（特別活動を要としたキャリア教育）



4 「キャリア・パスポート」を活用した学習指導のポイント

- ▶ 「話し合い、意思決定を行う学習過程」「対話的な関わり」

○ 学習活動がキャリア・パスポートへの記録のみに留まらない
（記録を用いて話し合い、意思決定を行うなどの学習過程）

○ 自己の歩みや成長について振り返る場面で、教師が児童生徒に対話的に関わり、助言や励ましを行うことで、個への関わりを大切にする。

○ 児童生徒が自己有用感を高め、自己変容の自覚に結び付ける

【「キャリア・パスポート」例示資料等について】（文部科学省）

5 「キャリア・パスポート」の構成（作成）について

▶（キーワード）「取捨選択」と「再編集」

- 学習記録の蓄積・・・1年間の学びの中でキャリア形成につながるような学習記録を計画的に蓄積する。

（例）運動会や合唱、校外学習の振り返り
自分たちで特に力を入れた学習活動

ワークシート、ノート
ファイル等（基礎資料）

- 取捨選択・・・蓄積した学習記録から、保存するものを重点的に取捨選択。

ワークシート、ノート
ファイル等（基礎資料）

取捨選択

（取捨選択して）
保存した記録

- 再編集・・・蓄積した基礎資料をもとに、自己の学習や日々の学校生活などについて振り返ったこと、自己の成長や進歩について記入。

ワークシート、ノート
ファイル等（基礎資料）

再編集

再編集したシート

- 「キャリア・パスポート」を構成

基礎資料から取捨選択した記録や再編集した記録をもとに「キャリア・パスポート」を構成する。過去のキャリア・パスポートを活用して自己を振り返り、将来に向けての自己の在り方を考える学習活動も考えられる。



6 「キャリア・パスポート」の管理、引き継ぎの仕方について

- ▶ 個人情報の保護や記録の紛失に十分留意し、管理は原則、学校で行う
- ▶ 学年・校種を超えて引き継いで指導に活用する

- (1) 「キャリア・パスポート」の管理は原則、学校で行う。
個人情報の保護や記録の紛失に十分に留意し、児童生徒が容易に見ることが出来る場所等では保管しない。
- (2) 「キャリア・パスポート」の引き継ぎについて
 - 学年間の引き継ぎは、原則、教師間で行う。
 - 中学校、高等学校間における引き継ぎは、進学先の学校の指示をもとに生徒を通じて行う。

【「キャリア・パスポート」例示資料等について】（文部科学省）

7 その他 実施に関するQ&A



Q 学校は、まずどのような準備をすればよいのでしょうか？

- (1) これまで学校で行われてきた取組の状況を確認
 - 特別活動やキャリア教育の取組
 - 学習活動の振り返り、学習記録の保存の仕方
- (2) 「キャリア・パスポート」の目的や意義を全教職員で理解する（研修等）
＜参考資料（HP）国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター リーフレット＞
- (3) 市町（学校組合）教育委員会や周辺の学校との連携・協力

Q 「キャリア・パスポート」は、多くの時間を要する新たな取組ですか？

キャリア・パスポートに関する取組は、特別に多くの時間を設けて取り組むわけではなく、「既にある 各学校での取組の宝を生かす」「今あるものを生かす」ことによって、効果的な取組になると思われます。

児童生徒が記入したシートやノート、作文用紙等をすべて蓄積することは難しいため、重点化して残したり、蓄積してきた基礎資料をもとに再編集したりするなど、それまでの取組を生かしながらキャリア・パスポートを工夫して構成していくことが求められます。





Q キャリア・パスポートの様式は統一すべきですか？

学習指導要領解説～特別活動編～では、「児童生徒自らが記録・蓄積を行っていく教材」について、次のように記述されています。

小学校から高等学校まで、その後の進路も含め、学校段階を超えて活用できるようなものとなるよう、各地域の実情や各学校や学級における創意工夫を生かした形での活用が期待される。

国や都道府県教育委員会等が提供する各種資料等を活用しつつ、各地域・各学校における実態に応じ、学校間で連携しながら、柔軟な工夫を行うことが期待される。

児童生徒が自己の学び等を振り返る際の様式例については、香川県教育委員会義務教育課HPに「さぬきっ子キャリア・パスポート」としてモデルを提示します。また、文部科学省からも様式や指導内容が例示されているので参考にし、地域や学校の実態に合わせてカスタマイズしていただければと思います。



Q 「キャリア・パスポート」に保護者や教師が記入する欄が必要ですか？

各学校や児童生徒の実態等を考慮した場合、必ずしも欄が必要というわけではありません。

国からの留意事項では、大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わり、児童生徒に自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結び付けることを重視するよう示しています。

Q 記録に空欄があってはいいませんか？

本人の意思と反する記録を強いる必要はありません。また、書き出せない実態の児童生徒には、教師が個別に関わり、声をかけるなど、対話を通して児童生徒理解に努める必要があります。

「キャリア・パスポート」が学習活動であることを踏まえ、日常の学習記録やワークシートなどの教材と同様に、指導上の配慮を行うことが大切です。

